

## とげぬき地蔵（天満地区）

去る3月24日（木）、藤並神社交差点の南側にお祀りされている地蔵堂で会式が行われました。一般的に毎月24日が地蔵菩薩の縁日ですが、天満地区では毎年3月24日に春の大祭が開催されています。

地蔵は、あらゆるものを育てる大地と同じ力を持つ仏であることから、その名が付いたとされています。地蔵は、全ての人々に救いの手をさしのべ、あらゆる苦難から救済し、地獄の世界にまで姿を現すと信じられてきました。そのため、身近な信仰の対象として庶民に親しまれ、江戸時代以降にはさまざまに伝承を持つ地蔵が作られました。

天満地区の地蔵は「とげぬき地蔵」と呼ばれています。その由来については明らかではありませんが、棘とげぬ抜き地蔵と呼ばれていますので、元は痛みや病気を治し、健康長寿のご利益があると信仰されていたと思われる。地元では、心身健康や商売繁盛、



交通安全などあらゆる願いを聞き届けてくださる靈験あらたかなお地蔵さまとして厚く信仰されています。春の大祭前には、毎年前掛けを新調するなど、「あじさい会（天満地区婦人会）」の方々が中心となって世話をしています。ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響により自粛していますが、これまでは会式の前日に餅つきを行い、当日は観音講の方々が主となってお勤めをした後に藤並神社境内に移動して盛大な餅まきを行っていたそうです。

有田川町教育委員会では、地域に伝わる言い伝えや昔から続く行事などの記録作成に取り組んでいます。ご協力いただける方は、社会教育課（金屋庁舎）まで情報提供をお願いします。